

片桐の国語授業について

年 組 番 号前 2007改訂版 配布日 月 田 限

ルール・連絡

教室移動はすばやく。始業のチャイム以前に着席。

(1)出欠を取る際に、席にこなれば欠席、欠

課、遅刻。

(2)遅れた場合は、自分で理由と共に申し出る
こと。申し出でない場合は、欠席となる。

座席表通りに着席すること。

(3)空席者を欠席扱いとする。勝手に席を代わ

らない。

授業で用意するものは、教科書・A4ファイル・
原稿用紙ノート・筆記用具(黒ペン・赤ペン必
要)・国語辞典・10分読書の本。

(4)国語を学習する上で、言葉の意味を確認す
ることは非常に重要なことです。解らない

語がある場合すぐに調べられるような用
意をして下さい。

(5)授業前に用意しておください。遅れた場合は、
我慢すること。

配布プリントを閉じるA4ファイルを常に準備す
ること。(紙製のやのを推奨する)

(6)これから、たくさんプリントを配るので、
それをなくさないように保管するファイル

が必要です。ファイルすることや自分の学
習の積み重ね(知識の集積)となる。

(7)定期的にチェックをして評価をす。

(8)整理の仕方は単元ごとにまとめ、その単元
内でのプリント番号順とする。(配った田村
順、プリント順にならなこともあるの
で注意する)こと。後日指導します。

(9)B4プリントの折り方は、半分に折ってから
に4分の1に折る。指定通りでない場合は
再提出となります。

(10)配布プリントは、なくしたからといって、
後から渡しません。

(11)不在の場合は、次に出席した時に渡すの
で忘れずに自分で取りに来ること。また、
学校に来たときに事前に取りに来ること。

ただし、もらいに来るのが遅いとプリント
が無くなっていて渡せなくなる場合があり
ます。

原稿用紙ノートが必要です。

(12)全て使い切つた回のものを購入するが、
片桐から購入すること。(100円)

(13)指定ノート以外の課題提出は認めません。

課題は必ず指示された形式で作業を行つこと。
(14)話をよく聞いて、どのように作業をすれ
ばいいのか考へること。

(15)課題の説明で話したことと同じ事は質問
されても答えない。聞き逃した場合は周り
の人に聞くこと。

(16)文字の形、濃さ、表現の内容によって伝
わるにくい場合は再提出となる。

小テストを適宜行い、評価の対象とする。

授業とは集団で行われる学習行為である。どう
して隣に仲間がいながらにして学習行為がおこ
なわれるのか、その効果を考えること。

(17)始業・終業の礼は厳肅なものである。

(18)始業中に話していい時と話してはい
けない時を判断すること(怒氣を読むこと)。

(19)私語・居眠りは学習不参加であり、欠課
と同等と見なす。特に教師が全体に説明し
ている時の私語は他人の知識と時間を奪う
最も悪質な授業妨害行為である。

(20)飲食・内職は、完全に学習不参加である。

(21)その時間に教室に入つても授業に参
加しなければ、欠席と同じ事である。

Gil(ギル)配布

片桐の授業で通用する地域通貨Gilを毎日1 Gil

ずつ配布します。場合に応じてボーナスも得ら
れます。

・課題、ファイル合格……1~10 Gil追加
・忘れ物……Gil不配布
・不参加・睡眠……マイナス1~10 Gil
・各種対戦型授業では勝ち数に応じて Gilが増
えたり減ったりします。

学習目標を達成するためにはモラルに反しない
限り何をしてもかまいません。

クラス全員が同意し、学習意義のあるものだつ
たら、何でもおこないます。

片桐は基本的に教務室にいます。

以上のことで不都合がある場合、会議の上改訂
できます。

皆さんの表現作品をweb上で公開することがあ
ります。そのときにはプライバシーに配慮して
掲載しますのだけ承ください。

勉強・学習内容

「勉強する」とことは、「自分のわからない
ところを見つけて、それをわかるようにする。」と
いうことです。

国語は言葉を学習する教科です。
言葉……人間が自己や他者、外界物を認識する
ために必要に迫られて作られたもの。

「言葉を知つてゐる」…物事を知つてゐる。
「言葉を使える」…「ミミコニケーションが上手」
「言葉を学習する」とは?

「言葉の機能を知る」「他者意識（思い遣り）を持つ」「情報の共有化」

授業七箇条の心得

伝わる作文 はつきり発音

強化目標

授業開始・終了のあいさつは頭を上げ、寄りか
名前を呼ばれたら三秒以内に返事をする。

からずに立てかじおこなへ
持ち物には黒ペンで名前を明記する。

提出議題における、ヨーロッパの語人は、黒、または青のペン（ボールペンなど）にじまないもの、を使う。

課題を間違った場合はホワイトを使つたり、ペントで塗りつぶしてその脇（または後）に書く。問題演習などの不正解の訂正は、もとを消さずに赤ペンで記入する。

ノートにおける新たな課題は、日付、名前を右端に記入し、新しいページから書き出す。

昨年度の生徒の感想

常用漢字の練習についてです。僕は小さい頃から全く漢字を勉強してきませんでした。漢字練習もだらだらただノートに書くだけでした。しかし現代文の授業で常用漢字を書くようになり少しづつではありますが漢字を書くようになりました。他のノートにも漢字が多くなってきたのもよく分かるようになりました。漢字の話にも関係していくのですが、現代文の授業の始めの「読書」もそです。漢字が嫌いなので本も難しい漢字が出てくるとその場面の感じから読み取ったり、読むのを止めてしまいます。しかし漢字を練習してから本をスムーズに読めるようになりました。しかも、本は漢字だけでなく「文章を読み取る力」も備わっています。今までマンガ本しか読んだことのない僕が、本を楽しく読もうというのは「生きる上で役にたつ」ことです。

今度は文章を読み取る力がつと文章を「書く力」も付いてきます。本を読み、ある程度の構造が分かるとあとは基本的なことが分かれば作文が

3点ある1点目は文をきちんと読むこと。2点目は人と協力すること。3点目は大勢の前で発表すること。1点目の文をきちんと読むことについて説明する。僕はいつも小さい声で読んでいて、読めないところは飛ばしていた。だがこんなことをしていっては社会に出た時苦労すると分かった。社会での会議の時、声が小さく周りの人々に伝わらなかつたらあとで怒られるのは全て自分だからだ。2点目の人と協力することについて説明する。この国語の読み方がからないまま話を始めたら恥ずかしい思いをするのは自分だと分かつたからだ。時間では班で活動することが多かつた。音読をしたりプリント課題をしたりと協力しなければ終わらないことばかりだつた。音読の時はみんなが全て読めるように字の読み方を教え合つたり声をみんなと合わせたりした。プリント課題の時には班の人たちと意見を言い合い答えを見つけ出したりした。社会に出てからもこのように協力することが多いと思つた。3点目の大勢の前で発表することについて説明する。小・中学校の時には大勢の前で発表することがなかつた。だが高校になつてからは音読の発表が多くなつた。僕は大勢が聞いていると緊張して読んでいる途中に噛んでしまつたり読むところが分からなくなつたりして大変でした。ですが何回も発表しているうちに緊張しなくなり噛むのも少なくなりました。次第に楽しくなりました。緊張する場面でも冷静にできる力が必要と思つたからです。またこの理由以外にも課題の提出日をしつかり守ることも学びました。高校に入つてからは課題がとても多くなり出さないと赤点になつてしまつたりとかなり焦りながら

書けるようになりました。まだ完全とは行きませんが少しずつ僕の文章力は上がっています。文章が書けるようになると今度は人に見せて分かるようになります。作文なのでやはり人に見せなくてはならないと思っています。そこで現代文ならではの「ボールペン」です。僕はボールペンが苦手であまり使つたことがありませんでした。字はすぐに消せないし大変だからです。でも将来どこかの会社と何かするときは全てボールペンでやるので、今のうちにボールペンで書くということはとても大事なことです。そうすると自然にきれいな字で書くという意識が出てきて、相手にも分かりやすく、自分も分かりやすい文章ができるようになりました。僕は今この作文を書いていて全て繋がっているのだと思いました。漢字を練習して書けるようになつたら本を読み、本を読んだら文章を書いて、文章を書いたら文章をさらに読みやすいようにする。この一つ一つが僕にとってとても大事なものだと思っています。どれか一つが欠けてもダメ、この作文に書いた文章全てが僕にとって「生きる上で役に立つ」ことだと思っています。

生活を送つてきました。

3点あります。1点目は、先生話している人の言うことをしつかりと聞き取ることです。2点目は提出するものの期限を守ることです。3点目は、作文や何かの文章を書くときにしつかりかくことです。この3点です。まず1点目の先生や話している人の言うことをしつかりと聞き取ることについて説明します。この国語の授業では、一度言つたことは二度といわないというルールがあつて初めの頃はそれに疑問を持つていたけれどそれはしつかりと話を聞くための訓練だと言うことがだんだん分かっていき、しつかり話を聞けるようになされました。2点目の提出するものの期限を守ることについて説明します。提出期限を守ることは当然だが、僕は守れていませんでした。最初の1学期は、それでも何とか乗り越えていましたが、2学期になるとテスト自体がノートの提出の点数になり、良い点数をとることができませんでした。3学期は今までより提出するようになつて、このテストは結構自信があります。これからも提出期限を守つていきます。3点目の作文や文章をしつかり書くことについて説明します。今まで、こんなに文章にけちをつけられたのは初めてでした。それも今思うと最初の頃は酷い文章を書いていたのだと感じます。ナンバリングやラベリングとかめた・ディスコースとか、様々な方法で文章力が高まつたと感じています。これからもっと文章力を高めて、将来につなげていきます。

4つある。1つ目は漢字を使うことで、2つ目は二分間読書で、3つ目は積極性で、4つ目は字をきちんと書くことである。

1つ目の漢字について説明する。自分は高校で国語をやるまで自分のわからない字は全部ひらがなで書いていた。しかしそれでは古文のように何が書いてあるか読みづらくなってしまうし、読む気もなくなってしまう文になる。読み手に伝わらなければ何の意味もなくなってしまうのだ。

2つ目の10分間読書について説明する。10分間続けることによってすごい量の文章を読んだことになるのだ。国語の時間が1年に100回ぐらいあつたとして、毎日10分ずつ読めば 100×10 で1000分、1000分とは約27時間分に相当する。27時間も読めば嫌でも文章を読み取る力や書く力が身に付く。

3つ目の積極性について説明する。先生の国語の時間はギルをもらうためにどうしても発言や皆の前で音読をしたりしなければならない。自分で動こうとしなければ成績も上がらないのだ。

4つ目の字をきちんと書くについて説明する。1つ目の理由に少し似ているのだが、自分で理解できる字でも相手が理解できない字なら、書いても全く意味がない。字をきちんと書くことによつて

て相手に伝えることができるわけで、どんなにい篇文章を書いても、字が読むことができなければ相手には伝わらないのだ。

3点ある。1点目は「新聞を読む」2点目は「常用漢字」3点目は「尊敬語」だ。

1点目の「新聞を読む」について説明する。過去の現代文のテストで総理の名前を漢字で書けなかつた。それで私は毎日新聞を読むようになつた。最初は1面と番組表。次は2面、1週間後には半分というように毎日1面ずつ読む面を増やしていきました。新聞を読むより面白くない現代の動きは分かるようになった。しかも新聞は面白い記事が出て楽しみながら読んでいる。

2点目の「常用漢字」について説明する。現代文以外のテストで漢字を忘れてひらがなで書くことが以前は多々あつた。他のテストは平仮名で書いていても正解だが現代文は違つた。最初は「ちょっとくらい間違つても正解にしてよ」と思つたが、社会に出て仕事を間違つたら大変な問題だ。そう思つてから語句を覚えるときも確実に漢字で覚えるようにした。以前より漢字を間違えなくなつたし字も上手になつてきました。

3点目の「尊敬語」について説明する。私は尊敬語を勉強するまで「自分はしつかり尊敬語を使えているから大丈夫」と思つていた。しかし実際に学習すると分からぬところがたたり考えが甘くなつたことを痛感した。これでは社会に出ても通用しないと思い頑張つて勉強した。今では基礎は解できたので社会に出ても大丈夫だ。そのほかも「ボールペンで書く」ことにより字を上手に書くように努力できました「10分間読書」で読むことの楽しさも学んだ。本当に充実した1年だつた。

3点ある。1点目は「返事」、2点目は「喋る」ということ、3点目は「読む」ということである。1点目の「返事」について説明する。人間誰しも名前を呼ばれたら「返事」をするもので、同時にしなければいけないものもある。それは自分が今ここに存在しているという証明であり、人間として当たり前のことである。今の若者の態度悪さはまずこの「返事」ができないところに原因がある。そういう意味で私はこの「返事」を重んじる現代文でその大切さと一般常識を身につけることができた。

2点目の「喋る」ということについて説明する。人間は喋る動物であつて、喋ることによつて自分の感情や気持ちを伝える。しかし現代はどうだろうか? インターネットが流通する中、私達の大好きな喋るという動作は、メールやチャットなどとつた在り来たりな文字を使うことによつてどんどん使つたれてしまつてはいる。そしてそれは私は

自身にも見られることで決して良いことではない。そういった名でこの現代文のスピーチは非常に勉強になつた。自分が何をして何を感じ、何を伝えたいたのか。それをあの短時間で口にするのはきわめて難しい。しかしそれをすることで本当の意味での喋るという意味、大きさを知ることができ、それはまた私が生きしていく上でとても良い材料になつてくるだろう。

3点目の「よむということ」について説明する。人間の気持ちを読むのは難しい。しかし対人関係が存在するこの世の中でそれができなければ生きとはいえない。相手が何をいいたいのか、何がしたいのか。それを悟ることはすなわち空気を読むことである。空気の読めない人間ほどやつかいなものはない。現代文の授業では他の教科にない独特な空気を私は感じていた。皆が現代文を嫌う理由もそこなるのではないだろうか。しかし私はあの独特的空気な空間にいること 자체がすでに勉強であると思う。言葉や文字ではなく空気を読むこと。それはもしかしたら社会では毎日あることで、それができなければ世の中を渡ることはできない。私はあの空間で、そういうことを身を以て勉強することができた。またこの3点は現代における私達若者の課題でもあるだろう。

「ボちゃん作文はよかつた。4コママンガの説明」ということです。自分は説明するのがとても苦手です。ボちゃん作文は、絵の状態やセリフから内容を読み取り文にするものでした。内容は理解できるが文にするのが自分にはむずかしかった。でも粘つて無い知恵を振り絞つて書いてみましたが。そしたらたいへんよくでき真下のハンコが押されていました。すごく嬉しかったし自分でも考えればできるという自信が出ました。自分の名前で鳩手も役にたつことでした。言語学も良かつたです。主に間違いやすい漢字夜分などがありました。分からぬいところは辞書でやつても良かつたので分かる問題でも辞書を使いました。漢字を調べるついでに意味に目を通すようになりました。意味が分からぬいと困るのでとても役にたちました。この分間読書も良かつたです。自分は小説に全然興味がなかつたのですが10分間読書で仕方なく読んでいた本の続きを読みたくなつて、本をほどんど毎日読むようになりました。今読んでいる本はとても面白く何回も読み返したか分かりません。しかも本に出てくる単語や英語は内容をもつと知りたいがために調べるようになりました。

提出物の期限を守ること。社会人になつたとき、大切な書類を期限を守らないで1日でも遅くなると会社に迷惑をかけてしまつたり、会議がでつきなくなつてしまつ。たつた1回だけでも遅くなつたりしたら上司からの信用もなくなり、仕事を任せてもられない。同僚からも相手にされない。

返事をしつかり返す。現代文では先生が名前を呼んだら3秒以内にきちんと聞こえる声で返事をしなければならなかつた。返事はその人のイメージに繋がつてくる。人の名前を呼んでも全く返事をしない人は、聞こえているのか分からぬいし、何だこいつと返事1つで人の印象は変わつてしまふ。これから生きしていく中では返事をしつかりできる人がきちんとした人間だ。

挨拶もそうだ。授業の始まりと終わりの時しつかり「お願いします」というだけで人の見方は変わる。実際に自分が先輩、先生、近所の人に挨拶をして、挨拶を返してもらうとすごく気持ちがいいし、その人の印象も良くなる。逆にかえしていく。されないと、自分は嫌われているのかなあ、この人態度悪いな、悪い印象しか残らない。挨拶は人と人が最初に交わす言葉だから、絶対にしなければならない。

字を丁寧に書く。解らない漢字はそのままにしないで、辞書を使ってでも漢字にする。字を自分でわかれればいいという考え方を最初持つていた。でも現代文でボールペンで字を書いているうちに、字というものは人に見せるもの。これから社会人になつてきた内示を書いていたら恥ずかしいし、情けない。と自分で考えが変わつた。

敬語です。自分は今年の春から会社に就職します。会社では今までと違い、同じ歳の人だけではなく、幅広い年齢の人と仕事をします。それに学校と違い、他者の人たちが自社へ尋ねてきたとき、そのお客様に対し、もしも接客をするようなどきに、正しい敬語が話せなければ、「この会社はどうなつてているんだ」と、先輩達に迷惑をかけることになります。なので敬語の学習は大変役に立ちました。

赤い繭も役立ちました。1つの文章の中から、作者が伝え対であろう感情やメッセージを読み取る力がつきました。特にこの赤い繭というのは比喩表現が多く使われ、このの真相を一見しただけでは理解できないようになつていています。特に普段から読書をしない自分には、何回も読まなければ内容の意味は全く分かりませんでした。しかし内容を理解しようと何回も何回も読んでいるうちに、この文章で作者は読者に何を伝えたいのか、どう受け取つてもらいたいのかという表現を見つけ出せるようになりました。完璧でないにしろ文章を理解する力を身につけてから、他の小説や文章を読むとき、今までならば気にも留めない部分になつたりするようになりました。これは役に立つります。文だけでなくメールや言葉からも相手の立場を感じとり、それに対してもう反応を録るか、どのような受け止めをするかなどとても重要なことです。